

「金色の風」たより



～ 令和3年度 第5号 ～

発刊: 令和4年3月28日

胆江地方「金色の風」サポートチーム事務局(奥州農業改良普及センター)

TEL: 0197-35-6742 FAX: 0197-35-6303



「金色の風」Facebook 「金色の風」たよりHP

←バックナンバー→ http://www.pref.iwate.jp/kennan/oshu_noukai/063974.html

スマートフォンやPCで御覧になれます。是非御確認ください。

令和3年は「金色の風」の高品質・良食味生産に向けた栽培管理をしていただきありがとうございました。

令和3年は生産者97名で156.6ha作付けされました。令和4年の作付予定は83名で154.4haが見込まれます。

皆様に御回答いただいたアンケート結果(回収率70%(68名))をもとにした令和3年産の振り返りと、令和4年度特に春作業の管理のポイントについて説明します。

令和3年度アンケート結果の概要①

(1) 「金色の風」を栽培した感想について

分けつの確保と追肥のタイミングの2項目について、難・やや難の回答が多い傾向でした(図1)。

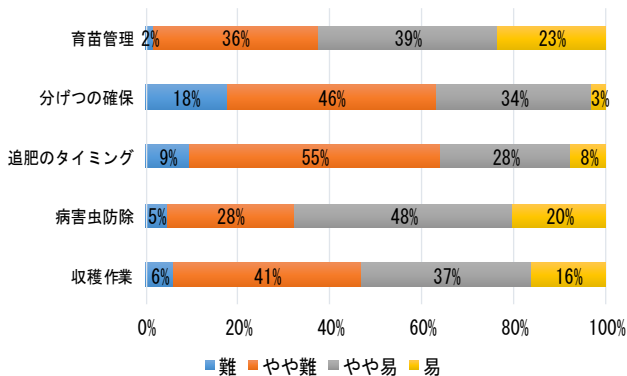


図1 栽培項目別の難易について

(2) その他、栽培で気になる点について

- ・育苗管理：芽出しで伸びてしまった。
- ・分けつの確保：牛ふん利用、肥効調節型肥料(一発肥料の使用)※や田植え後の硫安追肥の検討したい。

・食味コンテスト入賞者の栽培概要知りたい。
など、意見もいただきました。今後のたよりにて回答してきますので、よろしく願いいたします。

※専用の「金色の風コートオール15」があります。有機物の種類と量を確認して施用する。生育が旺盛な場合、中干しによる生育制御を実施する。

令和3年度アンケート結果の概要②

(3) 令和3年度の単収について

アンケート回答の68名の単純平均では509.2kg/10aであり、倒伏などの理由で粒の厚さがやや少なく、収量に影響があったと推測されます。また、昨年に比べ並みの回答が多かった。

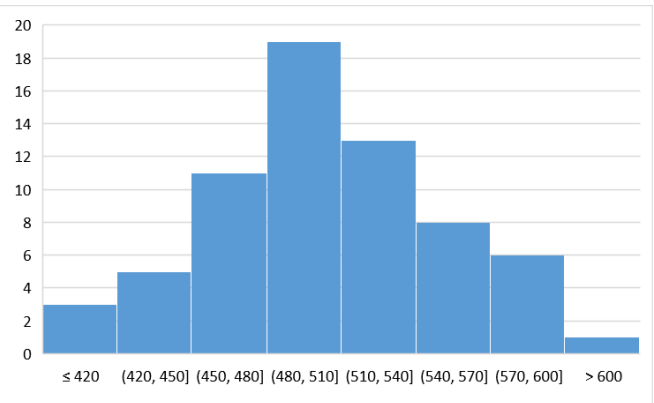


図2 「金色の風」の単収(kg/10a)

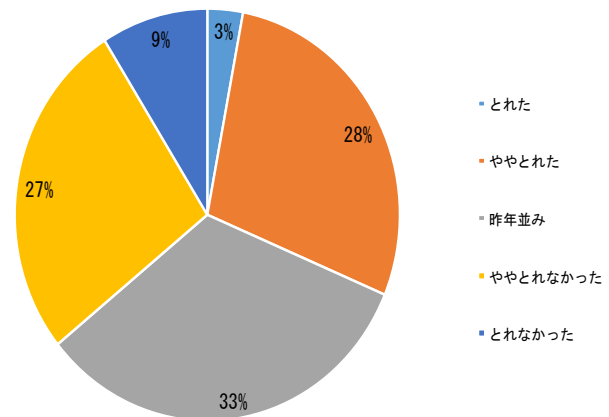


図3 昨年と比較した単収(とれたか)

編集後記

令和3年は、全般の高温と8月中旬の低温があり、水管理など栽培マニュアルに基づいた栽培管理をしていただきありがとうございました。引き続き、令和4年産も良食味米生産に向けた取り組みをお願いします。

裏面もあります

令和4年産に向けた栽培のポイント

～ 「金色の風」 の高品質安定生産を目指しましょう～

圃場選定	<input type="checkbox"/> 水もちに過不足がない、畑作からの復元初年目でないこと
育苗	<input type="checkbox"/> 細菌病類の発生に注意 <input type="checkbox"/> 浸種水温12～15℃、催芽・出芽30℃厳守 <input type="checkbox"/> 苗質は初期生育に影響するため、健苗育成を心掛ける。 ⇒ ハウス展開後の温度・かん水管理はきめ細かに (特に、複数品種を育苗する場合やプール育苗等)
施肥	<input type="checkbox"/> 基肥窒素成分は「ひとめぼれ」並の6kg/10a以下とする。 ⇒ 倒伏しやすいので、品質・食味を低下させないよう多肥栽培は行わない。 <input type="checkbox"/> 肥効調節型肥料を利用した体系の場合、全体の施肥窒素成分を「基肥＋追肥」体系の80%とし、追肥は行わない。
適期移植	<input type="checkbox"/> 移植早限以降(日平均気温で稚苗12.5℃、中苗13.5℃)で、安全出穂期内に 出穂する時期(概ね5/10～20)。
栽植様式	<input type="checkbox"/> 栽植密度 坪60株〔18.5株/m ² 〕～70株〔20.8株/m ² 〕 <input type="checkbox"/> 植付本数 4～5本/株。 <input type="checkbox"/> 植付深 稚苗2～3cm程度、中苗3～4cm程度。
水管理 (生育 初期)	<input type="checkbox"/> <u>分けつ発生を促進させるため、好天時は浅水</u> 、低温・強風時は深水管理とする。 <input type="checkbox"/> <u>昼間入水・朝夕かんがいにより、生育を促進する。</u> ⇒ 日気温格差が大きいほど、生育は促進される。
中干し	<input type="checkbox"/> 茎数が目標穂数の8～9割(茎数350本/m ² 、20本/株前後)になったら中干し する。 <u>6月25日頃までの開始</u> が目安。 ⇒ 倒伏防止対策として有効であるので必ず実施する。
追肥	<input type="checkbox"/> 追肥(穂肥)は <u>減数分裂期</u> に、窒素成分で2kg/10a以内。 <input type="checkbox"/> 基肥→穂肥の分施体系では、幼穂形成期の簡易栄養診断基準を参考に、追肥 の要否を判定⇒好適範囲1.0～1.7×10 ⁶
水管理 (低温時)	<input type="checkbox"/> 前歴深水かんがい(幼穂形成期前後：出穂の約23日前) 幼穂形成期の数日前から徐々に水位を上げ、幼穂形成期に4～6cmにする。 ⇒ 減数分裂期に備え水深・水温確保 <input type="checkbox"/> 深水かんがい(減数分裂期前後：出穂の約11日前) 減数分裂期の低温予想時は、10cm以上の水深を確保。 17℃以下の強い低温が見込まれる場合、水位15cm以上。 <input type="checkbox"/> 平年並～高めの気温が予想されるときは、間断かんがい。
水管理 (出穂後)	<input type="checkbox"/> 出穂～開花期間中は土壤水分が不足しない程度に灌漑。 <input type="checkbox"/> <u>登熟前半が高温の場合、夜間の水入替で地温低下を図る。</u> <input type="checkbox"/> 最終落水は出穂後30日以降とする。 ⇒ 早期落水は玄米品質の低下要因となる
収穫時期	<input type="checkbox"/> <u>黄化籾割合80～90% (穂基部の籾が1割程度緑色)</u> <input type="checkbox"/> 黄化籾割合の判断は、穂を手にとって行う。 <input type="checkbox"/> 最終的な刈取時期は、 <u>テスト籾摺りにより判断する。</u>
調製作業	<input type="checkbox"/> 水分15.0%以下に仕上げる。 <input type="checkbox"/> ライスグレーダ選別はLL(篩い目1.9mm)を使用する。
雑草・病害 虫防除	<input type="checkbox"/> 雑草・斑点米カメムシ防除は、地域慣行に準ずる。 <input type="checkbox"/> いもち病に弱いので、葉いもち・穂いもち防除を徹底する。